

ネオマテリアル創成研究会
専務理事

三原 孝夫氏

るものを極力食い止め、還元しようと動いているところだ。

超硬工具材料でリサイクルされずに行方不明になっている超硬スクラップは国内に540トある。超硬工具材料には希少金属「タングステン」が含まれ、回収・リサイクルが求められている。ネオマテリアル創成研究会では超硬工具回収センターを設立し、わが国の回収率を欧米並みの4割に引き上げる目標を掲げている。

さまざま形態に応じた回収する方法を構築したところで、同研究会の三原氏は「普及するため広報が大事」と強調した。具体的には実証した回収モデルを会員企業や専門部会、研修会にパンフレットやホームページで広報し、回収ネットワークを拡大する。

の構築も夢ではない」と話す。そのために①近畿圏の実証事業で作成したマニュアルの全国展開②継続的な研究会での発表、コア企業の開拓③外への流出防止のシステム構築④全国ネットワークを目標とした回収ソフトの技術開発の活動を進めていく。

使用後の超硬工具は7割が海外に流出、2割は国内でリサイクル、残り1割は工具の製造時に出る切削粉やスクラップと一緒に捨てている。同研究会では、海外に流出す

るだ。5年後には500社の会員企業の加入、年間30トのリサイクルを目指す。三原氏は「近畿圏での成功モデルを全国的に展開するところまでいけば、国内の循環型社会

のような海

超硬工具回収センターの活動内容

